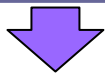


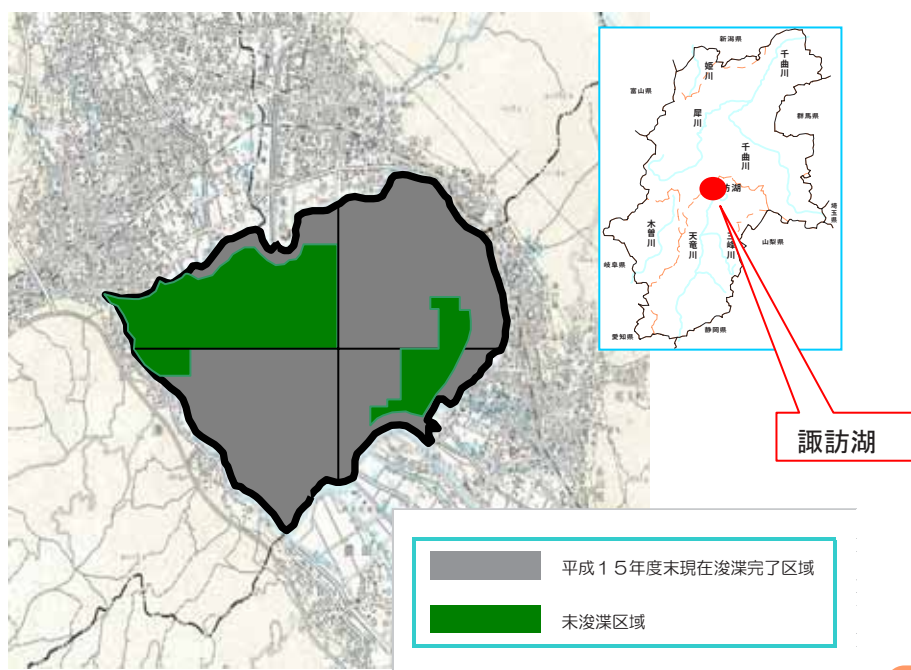
河川環境整備事業【諏訪湖：長野県】

諏訪湖は昭和30年代後半頃から周辺の産業の発展、生活水準の向上に伴い、湖の富栄養化が急速に進み、水質は悪化し、アオコの発生などが現れるようになりました。



このため、昭和44年から、諏訪湖の底泥から溶出する栄養塩類を削減するため、浚渫事業に着手しました。

また、昭和46年からは、諏訪湖流域下水道事業にも着手しました。

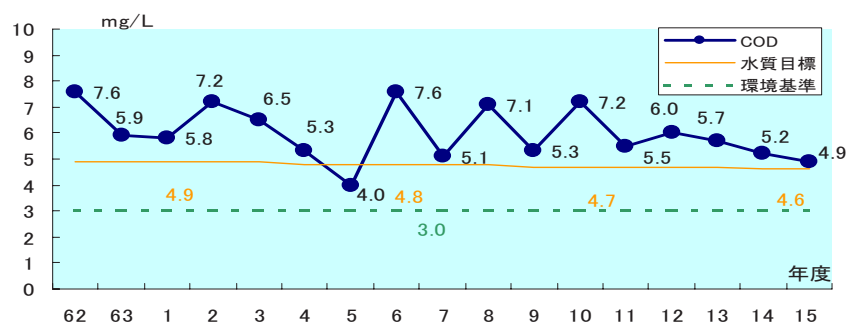


昭和40年代の諏訪湖

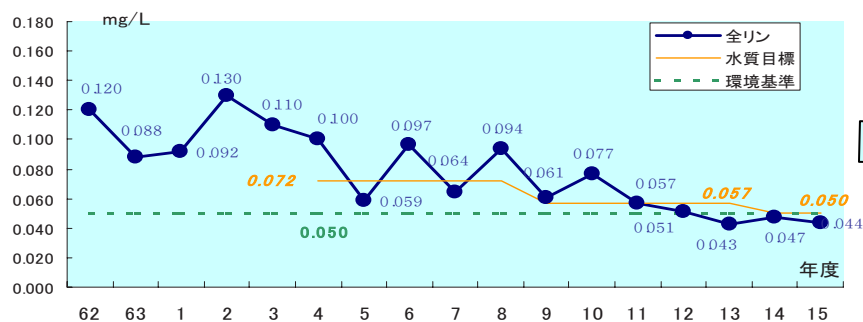


諏訪湖

諏訪湖3地点の年平均水質の推移



平成13・15年度には諏訪湖で水泳大会が開催されました。

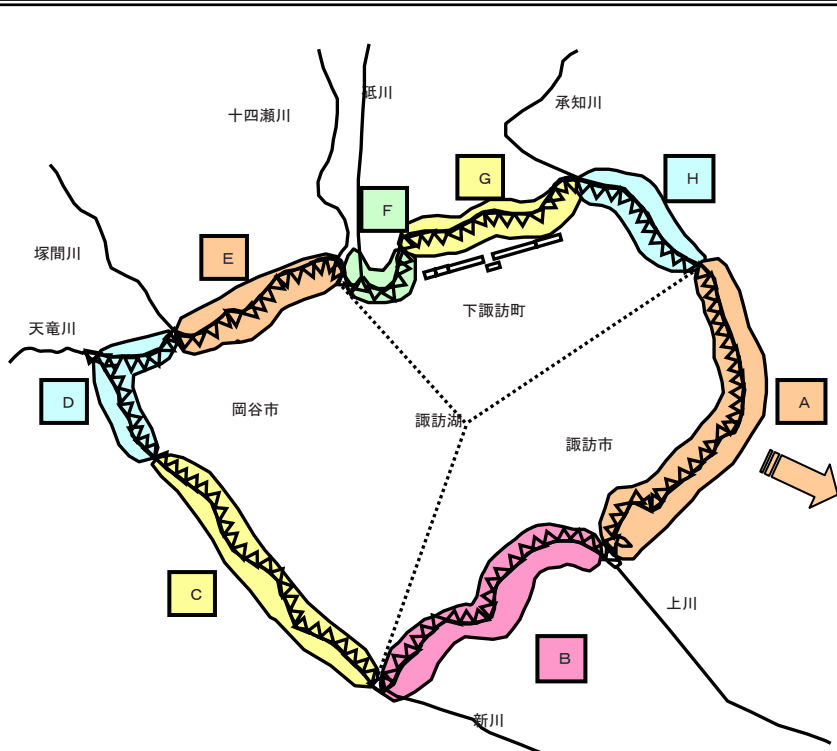


平成13年度から、全リンについては、諏訪湖の水質環境基準をクリアーしています。

河川環境整備事業について【長野県（一）諏訪湖】

新たな諏訪湖の風景・自然そして文化をを育む湖畔づくり

—昭和30年当時の諏訪湖を原風景とした湖畔環境の再生と創造



(平成16年7月20日)
信濃毎日新聞

諏訪湖は長野県のシンボル

諏訪湖をA～Hにゾーン分けをし、治水機能を維持しながら、各ゾーンでの諏訪湖の景観、環境を考慮し、さらに観光、レクリエーション、親水性を加味した環境整備を進めている。



湖周の清掃状況



また、諏訪湖を32地区に分け、周辺住民・団体がアダプトプログラム(里親制度)により、湖周の美化活動を行っている

泳げる諏訪湖願い

43人 初島往復400メートル

諏訪湖を泳いで浄化をアピールする「諏訪湖で泳ごう」の19日、諏訪市湖内公園内ふれあいなぎさ付近の水域で開かれた。市内をはじめ、長野市や松本市などから四十三人が参加。初島まで往復約四百メートルを泳いだ。



長野日報(平成16年7月20日)

「諏訪湖で泳ごう」初島を目標として泳ぐ参加者。この日は水温二十四・五度、晴天で泳ぎやすい状態だった。参加者は健康チェックを受けた後、準備体操をしてから泳ぎ始めた。中には泳ぎの達人もいるが、中には泳ぎが苦手な人もいた。参加者は泳ぎながら、湖の環境をアピールしている。参加者は泳ぎの達人もいるが、中には泳ぎが苦手な人もいた。参加者は泳ぎながら、湖の環境をアピールしている。